

西東京市 市民協働推進センター

担当課
〈市〉協働コミュニティ課
〈社協〉地域活動推進課地域福祉推進係

子どもに関わる市民活動を続けてきた、センター長の小松真弓さんにお話を聞きました。

■ 駅近、ビル1階のワンルーム

「ゆめこらぼ」は西武新宿線田無駅南口から数分のビル1階にあります。センター内には事務スペースと多目的スペースがあります。全面ガラス張りなので、中の様子がすぐわかります(写真下)。訪問したときも登録団体の人たちが予約した印刷機を利用していました(写真上)。「ゆめこらぼ」の管理・運営事業は、社会福祉協議会が西東京市から受託しています。スタッフ(社協の嘱託職員)はセンター長を含めて6人。1日4人の勤務体制で動いています。ワンルームなのでスタッフとの距離が近いと感じました。まさに市民が望む活動(=ゆめ)を様々な協働の形でコラボする場所です。西東京市にはNPO等企画提案事業があり、「ゆめこらぼ」でも相談に応じています。

■ 講座・イベントの企画は総力で

市民活動に役立つ講座・イベントの企画はスタッフ6人のアンテナで集めたものから絞り込み、月1回定期的に開かれる利用者の集まりで意見を聞いて仕上げます。その後、社協担当課の承認を経て決まります。運営会議には登録団体代表者と公募市民、東京ボランティア・市民活動センターからの委員、学識経験者が出席し、外部の意見を聞く場です。運営会議は市民が傍聴できて、議事録はホームページで公開されます。また、NPO市民フェスティバルは実行委員会で話し合い、駅前のアスタ催事場で賑やかに開催されます。



小松さん(左)と早稲田大学校友会西東京稲門会のみなさん

■ 活動に入りやすい工夫

ホームページをリニューアルして2年。最初のページに登録団体のイベントが並んでいて、見た人はすぐに興味がわくと思いました。またイベントでのボランティア募集のページもあり、ボランティアが参加しやすいと思いました。ページの更新は滞りなくスタッフが進めているということでした。

■ 「放課後カフェ」で未来に広がり

「ゆめこらぼ」主催の「まちづくり円卓会議」(*)から生まれた、中学校内での居場所「放課後カフェ」(*)が広がっています。試験前には「遊びはなし。自然と先生も加わって勉強します。うれしいです。」と小松さん。様々なことに気づき始める中学生が親とも先生ともちがう大人と出会うことは大切なこと。将来の市民活動メンバーをふやすことにつながるかもしれません。「放課後カフェ」で活動する小松夫妻の姿が目につくようなお話でした。(谷)

※まちづくり円卓会議:地域の課題をみんなで話し合う会議。

※放課後カフェ:西東京子ども放課後カフェ。市内公立中学校において、ほっとできる居場所としてのカフェを提供しています。学校内で実施することで、大人と子どもとの信頼関係が生まれ、自然と地域の輪が広がります。(ゆめこらぼHPの団体紹介から)

■ DATA

西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ
開館時間 10時から19時
休館日 日曜日 年末年始
電話 042-497-6950
FAX 042-497-6951
メール yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
Web http://www.yumecollabo.jp/
西東京市南町5-6-18 イングビル1F
☆登録団体数 176

通りを渡り右折 イングビル



田無駅南口 商店街直進



生花店脇を入ると正面に「ゆめこらぼ」

あすいあ登録団体 & 市民活動団体の紹介 こんな活動を しています

vol.
26

取材を希望する団体は
あすいあまでお知らせ
ください。広報部会
の部員が伺います!



チクチク会

3.11東日本大震災の被災者に、手縫いのフェルトのおもちゃを送り届ける活動を続ける田中弘実さんとお仲間たちに話を聞きました。

「チクチク会」を主催している田中さんは2011年3月11日の震災後、すぐに私が0歳の時に住んでいた石巻市役所に電話をして、必要なものは何か問い合わせをし、ヘアードライヤー、子どもの抱き枕、おもちゃなどが欲しいと聞くと、すぐに企業などに依頼、調達して送り届けたそうです。思い立ったらすぐに行動する田中さんに驚きましたが、「もともと営業をしていたので、平気でした」と話されました。ある日、親戚から娘さんに届いたフェルトの手作りおもちゃを、娘さんがとても喜んだ姿を見て、フェルトのおもちゃを作る「チクチク会」を立ち上げたそうです。

この会は「会費なし、決まりなし」で、メールでやり取りをして集まり、それぞれが得意なことをするので、縫う人、綿を詰める人、フェルトを切る人、子どもの面倒を見る人などで、楽しいおしゃべりをしながらチクチクしていました。

作品を作るのに「材料費が必要では？」の問いに、「フェルトはフェルトメーカーから寄付されるし、他

に必要なものはAmazonほしいものリストを活用して寄付してもらいます」と話されました。

新聞などで「チクチク会」が紹介されると、見ず知らずの人から宅配便で手作りの品が送られてくるようで、中身はリアルな野菜、果物、キャラクターなどのおもちゃから、手提げ袋、くつ袋、髪飾り、などの実用品も入っているそうです。

最近は被災した子どもたち、小児病棟の入院患者、児童福祉施設、親を亡くした子ども達へと届け先も増えています。田中さんは「おもちゃを送ることで喜んでくれる瞬間が増えれば良い、誰かのために作ることが意味のあることなので、ゆっくりとやり続けたい」と話されました。(安)

DATA

連絡先 ● e-mail chikuchikukai311@gmail.com (田中弘実)



布の遊具 “ひまわり”

布の絵本・布の遊具を知っていますか?

主に目が見えなかったり、見えにくかったりする子ども達に、絵本やおもちゃの楽しさを味わってもらおうと作られた、触って楽しむ遊具です。

布の絵本・遊具づくりを小平で長年続けている「布の遊具“ひまわり”」を訪ねました。



布の絵本は、紙でできた本を布に置き換えて表現したもの。布の遊具は、布で作ったおもちゃです。「布の遊具“ひまわり”」は、昭和60年に会を始めました。発足当時は「拡大写本の会“ひまわり”」という名で視覚障がいの人たちむけに、教科書や絵本などの文字を手書きで拡大したものを作っていたそうです。会をはじめたころ、図書館司書の人に「布の絵本」を作ってほしいと依頼され作り出したとのこと。拡大写本はパソコンの普及で拡大文字が簡単に印刷できるようになり、布の絵本、遊具づくりが主な活動となっていったため、「布の遊具“ひまわり”」と名称を変えました。

完成した作品は小平市立図書館に寄贈し、障がい者サービスの拠点館である小川西町図書館にストックされています。現在は障がい児・者を対象としていますが、ひまわりでは子どもから大人まで誰でも楽しめる遊具として貸し出ししてもらいたいそうです。

お邪魔したのは、主な活動場所である中央図書館1階の館外奉仕室。部屋には遊具製作に必要な裁縫道具や布などがたくさん置かれていました。ちょうど「ファスナー遊び絵本」(いろいろな生き物の口がファスナーになっていて、開けたり閉めたりして遊ぶ)などが作成中でした。出版されている絵本には著作権があり、なかなか自由に布に置き換えるというわけにはいかないので、遊びの絵本や遊具、むかし話を自分たちで絵本にしたものなどを作ることが多いということです。

アイデア出しもたのしみの一つだそうです。ぜひ、新しい方たちに入っていただいて、いっしょに楽しく布の遊具づくりができれば、と話されていました。(伊)

DATA

活動日 ● 毎月第1、3月曜日
場所 ● 小平市中央図書館1階 館外奉仕室
連絡先 ● 電話 042-403-5810 (松原)